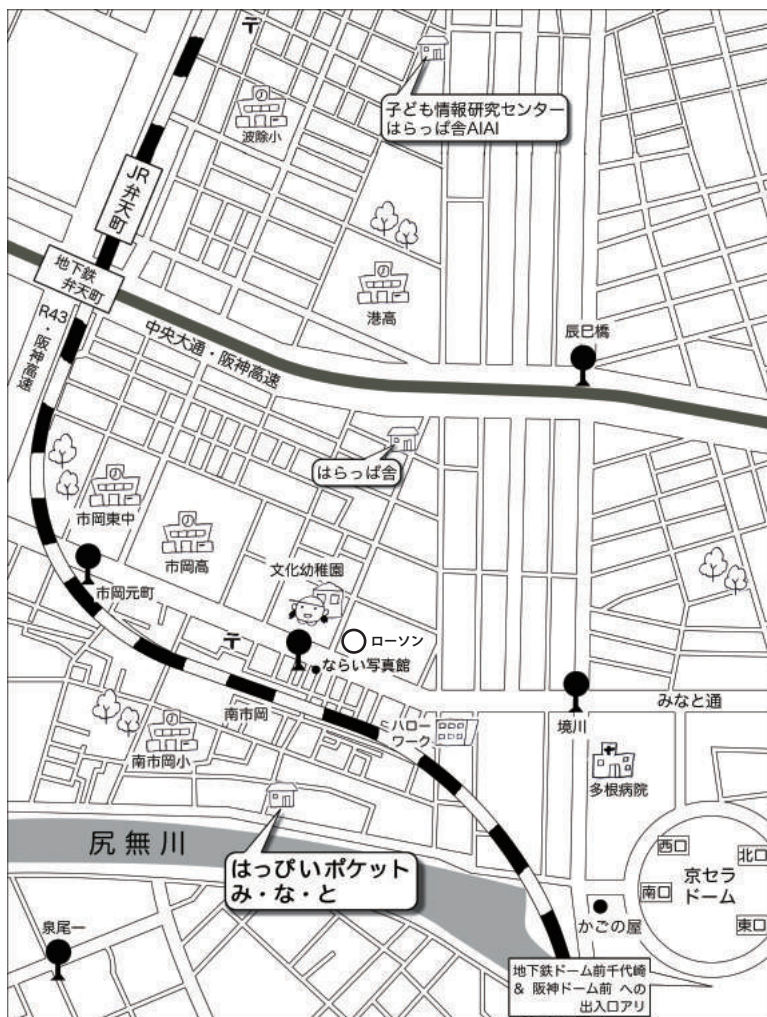


# はっぴい ポケット み・な・と

つどいの広場「はっぴいポケットみ・な・と」の主催団体である(公社)子ども情報研究センターでは、子どもの人権に思いを寄せる会員がさまざまな活動をしています。子どもとともに安心して人とつながれる居場所として「はっぴいポケットみ・な・と」を一緒につくっていきませんか！



【お知らせ】午前7時に大阪市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令された場合、または状況により休館になる場合があります。その際のお問い合わせは(10:00～)(公社)子ども情報研究センター (TEL)06-4708-7087 (HP)<http://www.kojoken.jp/>

子育て中の親と子どもだけではなく、プレママ、プレパパ、おじいちゃん、おばあちゃん、ご近所のみなさん、いろんな国のいろんな人が集まってつながりや笑顔が生まれる広場

商店街や子育てサークルをはじめ、地域のたくさんの方々とつながりを大切にしています

好きな時にきて、自由にくつろいでもらえる時間を共有したり、時には楽しいイベントを開催したりみんなで作る広場です

大阪市地域子育て支援拠点事業 はっぴいポケットみ・な・と

費用：無料(行事等では実費徴収もあります)

開所：月・火・水・金・土 AM9:30～PM2:30

(木・日・祝日・年末年始などはおやすみ)

場所：尻無川自治会館1階(港区南市岡1-11-19)

電話：070-6649-4355

メール：hapipominato@willcom.com

アクセス：地下鉄&JR弁天町駅から徒歩約20分

地下鉄&JR大正駅から徒歩約20分

南市岡バス停から徒歩約8分

地下鉄ドーム前千代崎駅から徒歩約20分

阪神ドーム前駅から徒歩約20分

委託運営：(公社)子ども情報研究センター

はっぴいポケットみ・な・とのサイトへ



## ともに生きる

〈共生に共に生きる〉とは、障害をもつ、もたないにかかわらず、いっしょに生きること。ともに学び、ともに生活すること。こんな当たり前のことができない世の中がまだまだあります。障害をもつ子どもが生まれたとき、障害をもつ人を街で見かけたとき、「かわいそうに」というマイナスのメッセージを感じることもやえありません。障害をもつ子どもが普通学級で学ぶとき、「迷惑」だと言われることがあります。

「迷惑」だと言われ、立ち止まってほしい。かわいそう？ 迷惑？

障害のある人、ない人の違いはわずかです。そして、人間はいろいろな面をもっていて、障害はそのなかの一面です。誰もが手助けを必要として生きています。手助けの種類や多さが違うだけなのです。

子どもたちに「障害を見るのではなく、人間を見る」感性をもってほしいと思います。子どもたちは、学校・公園・街で、障害のある子どもやおとなと出会い、自分の住む地域とともに育つなかで、この感性を育みます。それをおとなは大事に受けとめてほしいと思います。

わたしの娘は障害をもっています。721gで生まれ、生後7か月間を病院で過しました。娘が生まれて、まず思ったのは、「障害をもった子どもをどうやって育てていけばいいんだろう」ということでした。けれど、いっしょに暮らすうちに、その思いこそが娘に対する偏見そのものだと気づかされました。か弱かった赤ちゃんが、笑顔や手振りやアピールし、散歩と絵本の世界が大好きになり、やがて反抗期を迎えました。全介助の生活や言葉でのコミュニケーションがとれないのは不自由だし、人はどう知りあったらいいのか戸惑われるかもしれません。でも、娘はいろいろな人に出会い、感情を全身で表現しながら、たくましく育っているなあと感じます。そんな娘と、みなさんに知りあってもらいたいと思っています。

冊子「新しい子育て・子育て支援子育て温泉」より  
公益社団法人子ども情報研究センター 発行・販売。



ファミリー子育て何でもダイヤルは、あなたのほっとチャンネルです。

毎週水曜日 10:30～20:00  
でんわ 06-6585-9287

大きな悩み… 小さな悩み  
誰かに話せば すっきりするかも…

